

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
生物学	歯科衛生学科/1年次	2020年度/前期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(16時間)	必須	村主 節雄(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>生体構造を知るために、細胞の構造、働きおよび生命現象に関する基本的知識を修得する。</p> <p>【実務経験有】村主 節雄:高等学校教員免許の資格を活かし、大学での指導経験をもとに、生命科学の基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細胞の構造と機能について概説できる。</li> <li>2. 細胞の基本的構造とその機能を概説できる。</li> <li>3. 細胞代謝について概説できる。</li> <li>4. 遺伝子と遺伝について説明できる。</li> <li>5. 人体の発生の過程を説明できる。</li> <li>6. 生命を構成する物質を挙げることができる。</li> <li>7. 生体における化学反応について説明できる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	生命とは何か	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生命をつくる物質</li> <li>2) 真核生物とは何か</li> <li>3) 生物の変遷</li> <li>4) 細胞を作る主要な元素</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物の特徴</li> <li>・生命をつくる物質の構成</li> </ul>
2	細胞の構造と機能	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 原核細胞と真核細胞の特徴</li> <li>2) 真核細胞の基本的構造と働き</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細胞膜、核、細胞小器官の構造と機能</li> <li>・細胞の基本的生理機能</li> </ul>
3	細胞分裂と細胞周期	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 細胞周期の過程</li> <li>2) 細胞死の種類</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・染色体の数と複製</li> <li>・ヒトの組織と分類・ヒトの器官</li> </ul>
4	遺伝子と遺伝	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 遺伝子と染色体の構造 性染色体による性の決定</li> <li>2) 遺伝子と遺伝情報</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・減数分裂・転写と翻訳の過程</li> </ul>
5	人体の発生	<ol style="list-style-type: none"> <li>3) 発生の過程</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デオキシリボ核酸(DNA)の複製と修復の機序</li> <li>・受精と着床、胎児の発育</li> </ul>
6	細胞代謝	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 細胞の様々な活動</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酵素</li> <li>・細胞呼吸とエネルギー産生</li> </ul>
7	生命を構成する基本物質	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 生体の反応に必要な水の役割</li> <li>2) 生体構成成分と栄養素の種類</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・糖質、脂質、タンパク質、核酸の基本的構造</li> </ul>
8	生体における化学反応	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 酸素の運搬と二酸化炭素の排出</li> <li>2) 細胞内での代謝</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー代謝、分解、合成</li> </ul>
<p>[関連テキストページ]</p> <p>※人体1=人体の構造と機能1                  ※人体2=人体の構造と機能2</p> <p>1, 2回                  人体1 P.14~31・人体2 P.6~9</p> <p>3回                  人体1 P.14~31                  4, 5回                  人体1 P.32~44</p> <p>6, 7, 8回                  人体2 10~28</p>			
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新歯科衛生士教本 「生物学」</li> <li>「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」</li> <li>「人体の構造と機能2 栄養と代謝」</li> <li>全国歯科衛生士教育協議会 監修</li> <li>医歯薬出版株式会社</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90%</li> <li>2) 出席率 : 10%</li> </ol>	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
教育方法論	歯科衛生学科/1年次	2020年度/後期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(16時間)	必須	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>様々な立場から「教育」について学び、教育方法について具体的に考える。また、必要な情報、意思の伝達を行い、集団の意見を整理して発表するために、プレゼンテーションの基本的知識、技能、態度を習得する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題に対する自分の意見を他者にわかるように表現できる。</li> <li>2. グループワークで得られた意見を、統合して発表できる。</li> <li>3. 質問に対して的確な応答ができる。</li> <li>4. 他者のプレゼンテーションに対して、優れた点と改良点を指摘できる。</li> <li>5. 効果的なプレゼンテーションを行う工夫ができる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	教育の現場を知る①	1)教員主導型学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の質</li> <li>・アクティブラーニング</li> <li>・協同学習(ジグソー)</li> <li>・目的の共有</li> <li>・計画</li> </ul>
2	教育の現場を知る②	2)学生主導型学習	
3	グループワーク	1)「チーム」で働くためのコミュニケーション	
4	プレゼンテーション	1)内容の方向性の検討	
5		2)内容の詳細の検討	
6		3)内容の詳細の検討	
7		4)媒体の準備	
8		5)発表とまとめ、ふりかえり	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてプリントを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
テキストなし		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 課題発表 : 90%</li> <li>2) 出席率 : 10%</li> </ol>	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
心理学	歯科衛生学科/1年次	2020年度/後期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(16時間)	必須	
<p>[授業の目的・ねらい]                      良好な対人関係を構築するために、基本的な知識と人の一生の間に生じるさまざまな心理・行動上の変化である発達について、理解を深める。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]                      1. 行動と知覚、学習、記憶、認知、言語、思考およびパーソナリティとの関係を概説できる。                      2. 動機づけを概説できる。                      3. こころの健康に対する支援を概説できる。                      4. こころの発達にかかわる要因を概説できる。                      5. パーソナリティの特徴を概説できる。</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	学ぶ・覚えるところ	1)学習のプロセス 2)記憶のメカニズム	・レスポンド条件づけ、オペラント条件づけ ・記憶の過程、構造
2	やる気の心理	1)動機づけ	・マズローの理論
3	その人らしさのパーソナリティ 発達するところ	2)パーソナリティの記述 1)「発達」を考える	・観察法、面接法、性格検査法 ・発達、成長
4		2)発達段階と発達課題	・エリクソンの精神発達理論 ・ピアジェの思考発達段階説
5		3)乳幼児期から児童期のこころの発達	・発達障害
6		4)青年期	・自己概念とアイデンティティ
7		5)成人期 6)高齢期	・加齢現象、自己実現 ・結晶性知能、流動性知能
8	人と関わる心理	1)対人認知 2)帰属理論 3)対人魅力	・第一印象、親近効果 ・原因の帰属 ・近接性、身体的魅力、類似性、承認
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて プリントを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
テキストなし		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科 / 学年	年度 / 時期	授業形態
人間関係論	歯科衛生学科/1年次	2020年度/通年	講義 ・ (演習) ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
30回	2単位(60時間)	必須	副島 慶子(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>患者と向き合い、不安や緊張を安心へと導くコミュニケーションの基本知識と実践力を身につける。                      教育理念であるホスピタリティ(おもてなしの心)実現に向けた土台作りをする。  <b>【実務経験有】</b>副島 慶子:大学などでコミュニケーション講座の担当経験をもとに、学生に社会人として必要なコミュニケーションスキルを教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自分を観察し、内省することができる。</li> <li>2. 自分の直感やひらめきを信じ、行動に移すことができる。</li> <li>3. 自分を含めたひとの感情を丁寧に扱い、共感を持って他者を受け入れることができる。</li> <li>4. 非言語ツールやユーモア等がもたらす、「伝わりやすい」「つながる」表現を心がけるようになる。</li> <li>5. グループにて、リーダーシップおよび建設的な関係を形成できる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単元	内容	学習のポイント
1	序論	1)コミュニケーションとは？	
2	観察すること	1)見ているようで見ていない自分を知る	・未熟さを認めること
3		2)見る意識を持つ	・気づくこと
4		1)人の「違い」を理解する	・「あるがまま」の感覚
5	個人の尊重	2)他者を受け入れる	・正直さ ・柔軟性
6		1)カラダ全体で聴く	・そこにいること
7	聴くこと	2)より多くの情報を聴く	・「心ある」聴きかた
8		3)自分を見つめる	・ひらめき
9		1)想いを「視覚化」する	・具体化すること
10	想像力	2)他者の状況や物事の流れを予測する	・わかろうとすること
11		3)これからを考える	・イメージの整理
12		1)カラダ全体を使った表現を意識する	・わかりやすい表現
13	身体表現	2)声に注目する	・コミットメント
14		3)非言語コミュニケーションを活用する	・「伝えよう」とする意識
15		4)リラックスした身体を知る	・息を合わすこと
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて ログを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
テキストなし		1) 授業評価・レポート評価 : 100%	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

[ 授 業 の 内 容 ]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
16	信頼関係	1)心地良いボディタッチと声	・カラダに感謝する
17		2)信頼とは何か？	・状況を楽しむ ・安心感
18		3)チームワーク	・相手を感じる ・自分を信じる
19		4)抱える環境づくり	・リーダーシップ
20	そこにいること	1)自ら携わろうとする心	・プレゼンス
21		2)積極性	・レディネス
22	感情表現	1)感情のあれこれ	
23		2)自分の感情を表現する	・見える表現と見えない表現
24		3)他者の感情に寄り添う	・シェアリング
25	YES, AND	1)「NO, BUT」: 否定・批判の感情プロセス	・待つこと
26		2)「YES, AND」: 肯定・付加の感情プロセス	・何に「YES」か？
27		3)「YES, AND」の法則を活用する	・状況に「YES」するゆとり
28		4)「YES, BUT」: 肯定・修正(昇華)の方法	・チア&プッシュ
29		5)ディスカッション	・対話≠会話
30	まとめ	1)ジャーニーの作成	・成長を感じる

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学 科	年度 / 時期	授 業 形 態
情報処理 I	歯科衛生学科/1年次	2020年度/後期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者
15回	1単位 (30 時間)	必 須	田井 麻友美 (実務経験有)
<p>[ 授 業 の 目 的 ・ ね ら い ]</p> <p>情報技術の基礎となるコンピュータ基礎知識ならびに技法を習得する。                      Wordソフトの基礎を理解し、パソコンを使った一般的な文書作成の基礎と文書表現の方法を身につける。                      Excelソフトの基礎を理解し、パソコンを使った表およびグラフが作成できる技術を身につける。</p> <p><b>【実務経験有】</b>田井 麻友美:MCT2010等の資格をもち、企業等での指導経験も踏まえて、学生が社会に出てから必要なスキルを教授できる。</p> <p>[ 授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標) ]</p> <p>1. コンピュータを構成する基本的装置を列記できる。                      2. ワードプロソフト、表計算ソフトおよびグラフィックソフトを用いて資料が作成できる。                      3. ソフトウェア使用上のルールとマナーを述べることができる。</p>			
[ 授 業 の 内 容 ]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	Wordの基本	1)Wordの起動と終了 2)Wordの画面構成	・Windowsの概要、Wordの概要を学習する ・Wordの画面の名称と役割
2	文字の入力と編集の 基本操作	1)文字の入力方法をマスターする 2)文書の保存	・漢字の変換、変換候補の選択 ・名前をつけて保存
3	文書の編集	1)ページの書式設定 2)文字幅と文字間隔の設定	・ページ設定 ・右揃え、中央揃え、インデント
4	文書の印刷	1)改ページの挿入・ヘッダーとフッターの設定 2)段落番号の書式設定・タブ・インデント	・印刷プレビュー
5	文書の作成	3)ビジネス文書の作成例	・表の構成、表の作成方法 ・表、行、列、範囲選択
6	表を使った文書の作成	1)表の作成 2)表の編集	・箇条書き ・ヘッダー・フッター
7		3)文字列から表を作成する	・クリップアート ・ワードアート
8	図や画像を使った 文書の作成	1)図形の作成・編集 2)テキストボックス・ワードアートの挿入	
9	Excelの基本 データの編集	1)Excelの基本要素と基本動作 2)データの入力・関数の入力	・Excelの画面の名称と役割 ・データの移動、コピー、クリア
10	表の編集	1)罫線の設定 2)セルの書式設定	・相対参照、絶対参照を学習する ・セルを結合して中央揃え
11		3)表示形式の設定 4)列幅や行の高さの調整	・フォントサイズ、フォントの色の設定 ・行の削除・挿入
12	ブックの印刷	1)ページ設定の変更 2)印刷範囲の指定	・改ページプレビュー
13	グラフと図形の作成	1)グラフの作成	・グラフツール ・グラフのスタイル
14	グラフと図形の作成 ブックの利用と管理	2)図形の作成 1)ワークシートの管理	・作業グループ ・MAX関数、MIN関数、COUNT関数
15	関数	1)統計関数 2)数学/三角関数	・SUM関数、AVERAGE関数を学習する
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・「よくわかるMicrosoft Excel&Word2016」 富士通エフ・オー・エム株式会社 FOM出版		1) 科目終了時の試験評価 : 60% 2) 課題提出状況 : 30% 3) 出席率 : 10%	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
解剖学	歯科衛生学科/1年次	2020年度/前期	講義・演習・実習	
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者	
15回	2単位(30時間)	必須	荒木 伸一(実務経験有)	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>人体の成り立ちを理解するために、体の構造と機能に関する基本的知識を習得する。</p> <p>【実務経験有】荒木 伸一:獣医師の資格を活かし、大学での指導経験をもとに人体の構造と機能に関する基礎知識を学生へ教授する。</p> <p>[授業終了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 体の部位を解剖学的な名称で表現できる。</li> <li>2. 皮膚と粘膜の構造と機能を概説できる。</li> <li>3. 筋組織の構造と機能を概説できる。</li> <li>4. 体循環と肺循環について説明できる。</li> <li>5. 神経系の概要を学び脳神経の構造を理解する。</li> <li>6. 心臓の構造をスケッチし、各構造の名称を記入できる。</li> <li>7. 粘膜の構造を理解する。</li> </ol>				
[授業の内容]				
回	単 元	内 容	学習のポイント	
1	解剖学で学ぶこと	1)解剖学とは	・解剖学で学ぶこと	
2	人体の構造	1)骨格系	・人体の構造 ・骨の形状、連結 ・上肢骨・下肢骨	
3				
4		2)筋と運動	・体の各部位の筋	・筋の形状と分類 ・頭部、頸部の筋 ・筋の起始と停止
5				
6		3)消化・吸収	・消化酵素	・消化のメカニズム ・消化管の基本構造 ・動脈系と静脈系
7				
8		4)循環		・心臓の位置と形態 ・体循環と肺循環 ・血液の成分 ・リンパ系の概要
9				
10		5)神経系		・神経系の分類 ・中枢神経、脳神経の構造 ・脳の血管と神経
11				
12		6)呼吸		・呼吸器、胸郭の構造
13		7)感覚		・感覚受容器の構造 ・外皮と粘膜の構造
14		8)排泄		・視覚器の構造 ・排泄とは
15	9)内分泌、生殖器	・下垂体の構造	・腎臓・生殖器の構造	
	まとめ	※体温・内分泌は生理学	事前学習 次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)		
・最新歯科衛生士教本 「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%		

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
組織発生学(口腔含む)	歯科衛生学科/1年次	2020年度/前期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(16時間)	必須	池田 優佳(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>人体の成り立ちを理解するために、体の組織・発生に関する基本知識を習得し、顔面、口腔およびその周囲組織の成り立ちを理解するために、口腔とその周囲組織の構造と機能に関する知識を身に付ける。</p> <p>【実務経験有】池田 優佳: 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに体の組織・発生に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上皮組織の特徴を説明し、形態的と機能的に分類することができる。</li> <li>2. 支持組織、結合組織、筋組織について説明できる。</li> <li>3. 廢用の形成について説明できる。</li> <li>4. 歯と歯周組織の発生と歯の萌出と交換について概説できる。</li> <li>5. 歯と歯周組織の組織学的構造と機能を説明できる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	細胞と組織 ※1 P22～31	1) 組織 上皮組織 支持組織 筋組織・神経組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>・扁平上皮・円柱上皮・移行上皮</li> <li>・ミトコンドリア</li> <li>・結合組織・軟骨組織の種類</li> <li>・骨組織の構造・リモデリング</li> </ul>
2	肺葉の形成 ※1 P38～44	1) 三肺葉の主な機関と組織	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外肺葉・内胚葉・中胚葉</li> <li>・鰓弓と頭頸部</li> </ul>
	顔面と口腔の発生 ※2 P2～9	2) 胚子期・胎児期の発生 1) 鰓弓の形成 2) 各器官の形成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器官の発生と時期</li> <li>・顔面・口唇・口蓋・鼻腔</li> <li>舌・腺の発生と形成</li> </ul>
3	歯と歯周組織の発生 ※2 P208～	1) 歯の発生 2) 歯の萌出 3) 歯の脱落と交換	<ul style="list-style-type: none"> <li>・硬組織の発生</li> <li>・萌出過程</li> <li>・歯提・蕾状期・帽状期・鐘状期</li> <li>・萌出前期・萌出期・機能期</li> <li>・二生歯性</li> </ul>
4	歯および歯周組織の構造と機能 ※2 P218～251	1) 永久歯の硬組織の化学的組成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エナメル質の概要・性状・構造物</li> <li>・エナメル横紋・レチウス状・新産線・周波条・シュレーゲル状・エナメル葉・エナメル叢・エナメル紡錘・歯小皮</li> </ul>
5	歯および歯周組織の構造と機能 ※2 P225～		<ul style="list-style-type: none"> <li>・象牙質、歯髓の概要・性状・構造物</li> <li>・象牙細管・象牙基質・石灰化</li> <li>・球管象牙質・球間網・トームス顆粒層</li> <li>・成長線の種類</li> <li>・ワイル層</li> </ul>
6	歯および歯周組織の構造と機能 ※2 P236～ ※2 P240～		<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯髓の構造</li> <li>・象牙質、歯髓の加齢変化</li> <li>・セメント質の概要・分類・構造</li> <li>・歯根膜の概要・機能・構造</li> <li>・歯槽骨の概要と機能</li> <li>・歯肉の概要</li> <li>・線維芽細胞・マラッセの上皮遺残・骨芽細胞・破骨細胞・セメント芽細胞</li> <li>・歯根膜主繊維の走向</li> </ul>
7	歯および歯周組織の構造と機能 ※2 P243～		<ul style="list-style-type: none"> <li>・固有歯槽骨</li> <li>・外縁上皮・内縁上皮・歯肉粘膜固有層</li> <li>・動揺度・離開</li> </ul>
8	歯および歯周組織の構造と機能 ※2 P249～		<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯肉の概要</li> <li>・口腔粘膜の概要と機能的分類</li> <li>・粘膜の組織構造</li> <li>・咀嚼粘膜・被覆粘膜・特殊粘膜</li> </ul>
[使用テキスト]			事前学習
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新歯科衛生士教本「人体の構造と機能1解剖学・組織発生学・生理学」※1</li> <li>「歯・口腔の構造と機能口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」※2 全国歯科衛生士教育協議会監修医歯葉出版株式会社</li> </ul>			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[単位認定の方法及び基準]		[試験等の評価方法]	
		1) 科目終了時の最終試験の評価	: 90%
		2) 出席率	: 10%

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
生化学	歯科衛生学科/1年次	2020年度/後期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	2単位(30時間)	必須	石井 弘之 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]                      生命現象を分子レベルの化学反応として理解し、生命体に必要な栄養素の摂取と働きから健康の維持と増進を考える態度を養う。</p> <p><b>【実務経験有】</b>石井 弘之: 歯科医師の資格を活かし、臨床経験をもとに生化学の基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]                      1. 糖質、脂質、タンパク質の代謝を説明できる。                      2. アミノ酸からタンパク質が合成される過程が説明できる。                      3. 生体の恒常性を概説でき、ホルモン系と自律神経系を概説できる。                      4. 歯の硬組織および唾液の生化学について説明できる。                      5. デンタルプラークの生化学を学び、齲蝕と歯周疾患への関わりを説明できる。</p>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	糖質と脂質の代謝 3章P29～	歯科衛生士が生化学で学ぶこと	・ピルビン酸・アセチルCoA・クエン酸回路
2		1)エネルギー代謝の全体像 2)グリコーゲンの合成と分解 3)脂質の代謝とエネルギーの生成	
3	タンパク質とアミノ酸の代謝 4章P38～	1)タンパク質の加水分解・タンパク質の合成	・DNA
4		1)恒常性とは 2)血糖値	
5	生体における恒常性の維持 5章P44～	1)結合組織の組成と機能	・ホルモン系と自律神経系
6			
7	歯と歯周組織の生化学 1章P50～	・歯の無機成分 ・歯の有機成分	・コラーゲン・エラスチン ・プロテオグリカン ・タンパク質の合成 ・細胞外マトリックス ・リン酸カルシウム・ヒドロキシアパタイト・フッ素 ・エナメルたんぱく質・アメロゲン・エナメルリン
8		1)血清中のカルシウムとリン酸 2)石灰化の仕組み	
9	硬組織の生化学 2章P65～	3)骨の生成と吸収	・骨芽細胞と破骨細胞
10		4)血清カルシウム調整 ホルモン	
11	唾液の生化学 3章P81～	1)唾液の組成と機能	・糖タンパク ・酵素・抗菌因子
12			
13	プラークの生化学 4章P90～	1)プラークの生化学	・プラークの生物活性 ・プラークのう蝕発生機構 ・代用甘味料 ・プラークによる歯周疾患発生機構
14			
15			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・最新歯科衛生士教本 [人体の構造と機能2 栄養と代謝] 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態	
生理学	歯科衛生学科/1年次	2020年度/前期	講義・演習・実習	
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者	
8回	1単位(16時間)	必須	中井 恵 (実務経験有)	
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>人体の成り立ちを理解するために、体の構造と機能に関する基本的知識を習得する。  <b>【実務経験有】</b>中井 恵: 歯科医師の資格を活かし、臨床経験をもとに生理学の基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細胞の基本的機能の知識を学び理解する。</li> <li>2. 心臓の機能、心筋の特徴、刺激伝導系を概説できる。</li> <li>3. 血圧と心電図についてわかりやすく説明できる。</li> <li>4. ニューロンとは何か言える。</li> <li>5. 特殊感覚、体性感覚、内臓感覚と感覚器について概説できる。</li> </ol>				
[授業の内容]				
回	単 元	内 容	学習のポイント	
1	生理学で学ぶこと	1) 生理学とは	・なぜ生理学・口腔生理学を学ぶのか	
2		1) 筋と運動	・収縮機序と収縮力学 ・運動 ・骨格筋・心筋・平滑筋 ・運動ニューロン・反射・随意運動 ・伸張反射と膝蓋腱反射 ・筋紡錘、筋電図 ★小テスト	
3		2) 消化と吸収	・口腔での消化 ・小腸の機能 ・大腸の機能	
4		3) 循環	・血液の機能 ・血液型	・血液の凝固と溶解・止血 ・心臓の活動電位と心電図
5		4) 神経	・神経系の基本的機能	・活動電位 ・シナプス ・中枢神経、末梢神経、自律神経の機能 ・自律神経の作用 ・伝導路
6		5) 呼吸	・排気量と換気量	・誤嚥 ・呼吸の調節 ・過換気症候群
7		6) 感覚	・活動電位	・味覚と臭覚
8		7) 排泄	・尿の生成	・排尿の仕組み
9		8) 体温		・産生、放散、調節、変動
10		9) 内分泌		・体温の調節、発熱・発汗 ・甲状腺、上皮小体、膵臓、副腎、下垂体、性腺 ・ホルモンの働き
8	10) 生殖			
	まとめ		事前学習 次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)		
・最新歯科衛生士教本 「人体の構造と機能1 解剖学・組織発生学・生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%		

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
口腔解剖学 I	歯科衛生学科/1年次	2020年度/前期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	2単位(30時間)	必須	池田 優佳(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>口腔内の構造や歯及び歯周組織を解剖学的見地から学びその知識を身につける。</p> <p>【実務経験有】池田 優佳: 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに口腔周囲の構造、機能に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 固有口腔と口腔前庭の違いを述べることができる。</li> <li>2. 頭頸部の筋の構成、咀嚼筋の名称を列挙できる。</li> <li>3. 脳頭蓋を構成する骨と顔面頭蓋を構成する骨の名称、個数、部位が言える。</li> <li>4. 下顎の運動について概説できる。</li> <li>5. 三叉神経、顔面神経の走行を概説できる。</li> <li>6. 口腔粘膜の分類と特徴について説明できる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	1章 顎・口腔の構造と機能	1) 口腔とは	・口腔前庭と固有口腔
2	2章 口腔付近の解剖学	2) 口腔を構成する骨	・頭蓋骨 ・上顎骨 ・下顎骨
3		3) 頭頸部の筋と作用	・咀嚼筋 ・頸部の筋
4			
5			
6		4) 顎関節	・動脈・静脈系・リンパ節
7		5) 口腔付近に分布する脈管系	
8		6) 神経	
9		3章 歯の形態	1) 永久歯の形態的特長
10	・歯の形態 ・歯の種類、歯式、名称、用語 ・形成時期と萌出時期 ・根管の形態 ・歯種の鑑別 ・唇面 ・舌面 ・隣接面(遠心・近心)		
11	・歯根と歯髓腔 ・歯髓腔 ・歯冠・歯根の異常		
12	・重要語句確認テスト		
13	・重要語句確認テスト		
14	1～8のまとめ		
15	9～13のまとめ		
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・最新歯科衛生士教本 「歯・口腔の構造と機能 口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	



## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
口腔生理学	歯科衛生学科/1年次	2020年度/前期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(16時間)	必須	吉田 淳一(実務経験有)

**[授業の目的・ねらい]**

口腔・顎・顔面などの諸器官の機能を健全に維持するため、また機能障害を予防治療するための知識を身につける。

**【実務経験有】**吉田 淳一: 歯科医師の資格を活かし、臨床経験をもとに口腔生理に関する基礎知識を学生に教授する。

**[授業修了時の達成課題(行動目標)]**

1. 歯の構造と組織、および歯周組織についての知識を身につけ患者に概要が説明できる。
2. 咀嚼筋の種類と各咀嚼筋の位置と各筋の関与する下顎運動が説明できる。
3. 嚥下運動の全過程と異常嚥下と不正咬合についての知識を身につけ概説できる。
4. 歯の感覚と口腔内粘膜の感覚の種類が列挙できる。
5. 味覚についての基礎知識を学び、味覚異常と検査方法についてを概説できる。
6. 唾液の働きについて患者に説明することができる。

回	単 元	内 容	学習のポイント
1	3章 歯と口腔の感覚	1) 歯の感覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・圧覚</li> <li>・歯髄の感覚</li> <li>・関連痛</li> </ul>
2	4章 味覚と臭覚	1) 味覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・味覚の役割</li> <li>・味蕾(未覚受容器)</li> <li>・味覚神経、味覚障害と味盲</li> </ul>
3	5章 咬合と咀嚼・吸啜	2) 嗅覚	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嗅覚の役割</li> </ul>
4		1) 下顎位	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下顎安静位、咬頭嵌合位、中心位、中心咬合位</li> </ul>
		2) 下顎の運動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・下顎運動、下顎限界運動、咀嚼筋</li> <li>・下顎の運動に関与する筋</li> </ul>
		3) 顎反射	<ul style="list-style-type: none"> <li>・閉口反射、開口反射</li> </ul>
		4) 摂食行動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・咀嚼</li> </ul>
		5) 咀嚼能力	
		6) 吸啜	<ul style="list-style-type: none"> <li>★理解度確認小テスト</li> </ul>
5	6章 嚥下と嘔吐	1) 嚥下と嘔吐にかかわる構造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・咽頭、鼻腔・口腔・喉頭</li> <li>・上咽頭、中咽頭、下咽頭</li> </ul>
		2) 嚥下	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嚥下の概要</li> <li>・嚥下に関与する筋群</li> <li>・嚥下の過程、神経機構</li> </ul>
6		3) 嘔吐	<ul style="list-style-type: none"> <li>・嘔吐の機序と神経機構</li> </ul>
7	7章 発声	1) 発声機構の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構音</li> <li>・声帯</li> </ul>
		2) 声の生成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機能性構音障害、器質的構音障害、運動障害性構音障害</li> </ul>
		3) 言語音の形成	
		4) 歯と口腔の病態と発音	
8	8章 唾液	1) 唾液腺	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大唾液腺、小唾液腺</li> </ul>
		2) 唾液の分泌機構	
		3) 唾液の性状・成分と機能	
		4) 唾液と疾患	

事前学習

次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する

**[使用テキスト]**

・最新歯科衛生士教本  
「歯・口腔の構造と機能  
口腔解剖学・口腔組織発生学・口腔生理学」  
全国歯科衛生士教育協議会 監修  
医歯薬出版株式会社

**[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)**

- |                  |       |
|------------------|-------|
| 1) 科目終了時の最終試験の評価 | : 90% |
| 2) 出席率           | : 10% |

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
病理学	歯科衛生学科/1年次	2020年度/前期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(16時間)	必須	荒木 伸一 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>口腔領域に発生する疾病の発生機序および病理学的特徴を理解するために疾病の概念、病気と病態に関する基本的知識を習得する。</p> <p>【実務経験有】荒木 伸一:獣医師の資格を活かし、大学での指導経験をもとに疾病の発生、病理学的特徴に関する基礎知識を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病因の内因と外因について説明できる。</li> <li>2. 退行性病変である代謝障害の変性・萎縮・壊死についての基礎知識を身につけ、それぞれ概説できる。</li> <li>3. 進行性病変である増殖と修復についての基礎知識を身につけ、肥大、増生、化生、再生について説明できる。</li> <li>4. 膿瘍、蜂窩織炎、蓄膿症の相違がポイントを絞って説明できる。</li> <li>5. 良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを説明できる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	病理学序論	1) 疾病の多様性と共通性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・恒常性、病態</li> <li>・完全治癒、不完全治癒</li> <li>・栄養障害、物理的因子、化学的因子、生物学的因子</li> </ul>
	病因論	2) 内因・外因	
2	遺伝性疾患と奇形	1) 遺伝性疾患	<ul style="list-style-type: none"> <li>・染色体、先天異常、遺伝病</li> </ul>
		2) 奇形	
3	循環障害	1) 循環血液量の異常	<ul style="list-style-type: none"> <li>・器官形成期</li> <li>・重複奇形、単体奇形</li> <li>・体液、体循環、肺循環</li> <li>・虚血、充血、うっ血、出血、浮腫、ショック</li> <li>・血栓症、塞栓症、器質化、動脈硬化症</li> </ul>
		2) 閉塞性の循環障害	
4	代謝障害と退行性病変	1) 細胞障害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細胞障害因子</li> <li>・退行性病変、進行性病変</li> <li>・タンパク質変性、硝子変性、脂肪変性</li> <li>・萎縮、アポトーシス</li> </ul>
		2) 変性と物質代謝障害	
5	増殖と修復	1) 再生と修復	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肥大、増生、化生</li> <li>・不安定細胞、安定細胞、永久細胞</li> <li>・肉芽組織</li> </ul>
		2) 創傷治癒	
6	炎症	1) 炎症とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一次治癒、二次治癒、器質化</li> <li>・5大徴候、免疫反応、組織学的変化</li> <li>・ケミカルメディエーター、炎症に関与する細胞</li> <li>・炎症の分類、急性、慢性</li> <li>・病原微生物、菌交代現象、日和見感染</li> <li>・抗原抗体反応、免疫グロブリン</li> <li>・一次応答、二次応答</li> <li>・アレルギーの分類(I～IV)</li> <li>・自己免疫疾患、免疫不全症</li> <li>・発がん因子、がん遺伝子</li> </ul>
		2) 炎症の分類	
		3) 感染症	
7	免疫応答異常	1) 免疫応答	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抗原抗体反応、免疫グロブリン</li> <li>・一次応答、二次応答</li> <li>・アレルギーの分類(I～IV)</li> <li>・自己免疫疾患、免疫不全症</li> <li>・発がん因子、がん遺伝子</li> </ul>
		2) アレルギー	
8	腫瘍	3) 腫瘍の発生	<div style="text-align: center;">事前学習</div> 次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
		4) 腫瘍の種類と性質	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・最新歯科衛生教本 「疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」 歯科衛生士教育協議会 編集 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
口腔病理学	歯科衛生学科/1年次	2020年度/前期	講義・演習・実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授 業 担 当 者
8回	1単位(16時間)	必須	大河原 敏博 (実務経験有)
<p>[ 授 業 の 目 的 ・ ね ら い ]</p> <p>口腔領域に発生する疾病の発生機序および病理学的特徴を理解するために疾病の概念、病気と病態に関する基本的知識を習得する。</p> <p><b>【実務経験有】</b>大河原 敏博: 歯科医師の資格を活かし、臨床経験をもとに口腔内の疾病の発生、病理学的特徴に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[ 授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標) ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歯の発育障害の種類と病態を相互で説明することができる。</li> <li>2. 象牙質・セメント質の増生と歯根膜の石灰化についての知識を身につけ患者に説明できる。</li> <li>3. う蝕の病因と病態を図を使用して患者に説明できる。</li> <li>4. 歯髄・歯周組織の病変についての基礎知識を身につけ、病名と症状を専門用語で説明できる。</li> <li>5. 口腔粘膜創と抜歯創の治癒について説明できる。</li> </ol>			
[ 授 業 の 内 容 ]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	歯の発育異常 歯の損傷と着色・付着物	1) 大きさ・歯数・形・構造の異常 2) 物理的損傷、歯の着色、プラーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・局所的な原因と全身的な原因</li> <li>・色の異常(ポルフィリン・黄疸・テトラサイクリン)</li> </ul>
2	う蝕	1) う蝕の疫学、組織学的分類 2) う蝕の組織学的変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔細菌、多因子性疾患</li> <li>・発生機序</li> <li>・エナメル質う蝕、象牙質う蝕、セメント質う蝕</li> </ul>
3	象牙質・歯髄複合体の病態	1) 歯髄炎 2) 象牙質の増生、象牙質知覚過敏症	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病因と発生機序</li> <li>・急性歯髄炎、慢性歯髄炎</li> <li>・第二象牙質、第三象牙質</li> </ul>
4	歯周組織の病態	1) 病因と発生機序 2) 辺縁部歯周組織の病変	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根尖部歯周組織の病変(炎症)</li> <li>・歯肉炎、辺縁性歯周炎、急性壊死性潰瘍性歯肉炎、薬物性歯肉増殖症、若年性歯周炎、咬合性外傷</li> </ul>
5	口腔粘膜の病変 口腔領域の嚢胞と腫瘍	1) 口腔粘膜の特徴・病変 2) 口腔領域の嚢胞と腫瘍	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘルペスウイルス感染、手足口病</li> <li>・口腔カンジダ症、扁平苔癬</li> <li>・歯源性嚢胞(歯根嚢胞・原始性嚢胞・含菌性嚢胞)</li> <li>・非歯源性嚢胞(粘液嚢胞・術後性上顎嚢胞)</li> </ul>
6	口腔癌 顎骨の病変	1) 前癌病変 2) 顎骨骨髓炎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・白板症、紅板症</li> <li>・扁平上皮癌</li> <li>・ビスフォスフォネート関連顎骨壊死</li> </ul>
7	唾液腺の病変	1) 唾液腺に発生する病変 2) 良性腫瘍と悪性腫瘍	<ul style="list-style-type: none"> <li>・流行性耳下腺炎、シェーグレン症候群</li> <li>・多形腺腫、ワルシ腫瘍、粘表皮癌</li> </ul>
8	口腔領域の奇形 口腔組織の加齢変化	1) 口腔顎顔面の発生 2) 口腔組織の加齢変化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口唇裂、口蓋裂、唇顎口蓋裂、顔面披裂</li> <li>・エナメル質の変化、象牙質の変化、セメント質の変化</li> </ul>
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準] (試験等の評価方法)	
最新歯科衛生教本 「疾病の成り立ち及び回復過程の促進1 病理学・口腔病理学」 歯科衛生士教育協議会 編集 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
薬理学	歯科衛生学科/1年次	2020年度/後期	講義・演習・実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者
8回	1単位 (16 時間)	必 須	芳地 一 (実務経験有)
<p>[ 授 業 の 目 的 ・ ね ら い ] 薬物の性質、薬理作用、作用機序及び副作用を理解するために、疾病の回復を促進する薬に関する基本的知識を習得する。</p> <p><b>【実務経験有】</b>芳地 一:薬剤師の資格を活かし、大学病院の業務経験をもとに薬剤に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[ 授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標) ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 薬理作用(薬物の作用)について基本的形式と分類を説明できる。</li> <li>2. 薬物の作用機序について説明できる。</li> <li>3. 協力作用、拮抗作用、相互作用について例を挙げながら説明することができる。</li> <li>4. 神経系に作用する薬物の種類を列挙できる。</li> <li>5. 痛みや炎症に対する薬物の薬理作用、作用機序、副作用を説明できる。</li> </ol>			
[ 授 業 の 内 容 ]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	総論	1)薬物の定義と分類	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本薬局方及び局方薬、毒薬、劇薬、麻薬、医薬部外品</li> <li>・薬物の用量と作用、生体の感受性・プラセボ効果含む</li> <li>・薬物の副作用、有害作用</li> <li>・協力作用、拮抗作用、相互作用、蓄積、耐性、依存</li> <li>・自律神経系作用薬</li> <li>・局所麻酔薬</li> <li>麻薬性鎮痛薬・解熱性鎮痛薬</li> <li>・ステロイド性抗炎症薬、非ステロイド性抗炎症薬、抗ヒスタミン薬</li> <li>・血液タンパク質凝固薬、血液凝固促進薬、血管収縮薬、毛細血管強化薬、抗プラスミン薬</li> <li>抗菌薬・消毒薬</li> </ul>
2		2) 薬物の作用・副作用	
3	末梢神経と薬	1)末梢神経に作用する薬物	
4	局所麻酔薬	1)局所麻酔薬とは	
5	痛みと薬	1)鎮痛薬とは	
6	炎症と薬	1)炎症とは 2)炎症に作用する薬物	
7	血液と薬	1)血液凝固 2)血液に関連する薬物	
8	感染症と薬	1)抗感染薬 2)消毒薬	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新歯科衛生士教本</li> <li>「疾病の成り立ち及び回復過程の促進3薬理学第2版」</li> <li>全国歯科衛生士教育協議会監修</li> <li>医歯薬出版株式会社</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90%</li> <li>2) 出席率 : 10%</li> </ol>	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
微生物学	歯科衛生学科/1年次	2020年度/後期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(16時間)	必須	岡部 昭延 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>口腔の常在微生物とそれらが原因となる疾患を理解するために微生物の基本的性状、病原性と感染によって生じる病態と生体の防御機構としての免疫に関する基本的知識を習得する。</p> <p>【実務経験有】岡部 昭延: 医師の資格を活かし、大学での講義経験をもとに微生物学の基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 細菌とウイルス、その他の微生物の形態的特徴と基本性状について概説できる。</li> <li>2. 細菌の培養法、顕微鏡観察法の知識を身につけることができる。</li> <li>3. 感染症の種類と、感染源・感染経路について説明できる。</li> <li>4. 自然免疫と獲得免疫についてそれぞれ説明できる。</li> <li>5. 歯周病原菌を列挙できる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	疾病と微生物	1) 疾病と微生物、免疫学 2) 感染と感染症	・病原微生物・ウイルスの発見の歴史
2	微生物の病原性	1) 微生物の位置づけ 2) 細菌・ウイルス	・細菌(形態・構造・代謝・増進) ・ウイルス(構造・増殖)
3	宿主防御機構と免疫	3) 歯科に関連するウイルスとウイルス感染症 4) 真菌・原虫 1) 宿主防御機構	・ヘルペスウイルス ・口腔カンジダ症の症状 ・自然免疫、粘膜免疫・全身免疫
4		2) 免疫機構	・免疫機構の発現と調節
5	化学療法	3) 免疫の種類 4) ワクチン 5) 液性免疫と細胞性免疫	・能動免疫と受動免疫・自己免疫疾患 ・不活化ワクチン、トキシソイド ・抗原抗体反応、補体、遅延型過敏症
6	口腔微生物学	6) アレルギー(過敏症)	・I型アレルギー(アナフィラキシー)、ツベルクリン
7	口腔感染症	1) 化学療法と化学療法薬 2) 主な化学療法薬の種類と特徴 3) 抗真菌薬 4) 抗ウイルス薬	・細胞壁合成阻害薬 ・マクロライド系抗菌薬、テトラサイクリン系抗菌薬
8	院内感染対策と滅菌・消毒	1) 口腔細菌叢 2) バイオフィルムとしてのプラーク	・抗ヘルペス薬、抗インフルエンザウイルス薬 ・口腔内細菌叢の成り立ちと遷移 ・プラークの形成(粘着性多糖体の合成)
		1) 齶蝕 2) 歯内感染症 3) 歯周病	・齶蝕病原性細菌 ・慢性歯周炎、侵襲性歯周炎
		4) その他の感染症	・ウイルス性唾液腺感染症、誤嚥性肺炎
[使用テキスト]			事前学習
・最新歯科衛生士教本 「疾病の成り立ち及び回復過程の促進2 微生物学」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版株式会社			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[単位認定の方法及び基準]		[試験等の評価方法]	
		1) 期末試験の評価(中間試験を含む)	: 90%
		2) 出席率	: 10%

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
口腔衛生学 I	歯科衛生学科/1年次	2020年度/前期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	2単位(30時間)	必須	荻野 芳 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>歯、口腔の健康にかかわる社会の仕組みを理解し、歯科疾患の予防能力を高める態度を養うために、歯、口腔の健康と予防に関する基本的知識を身に付ける。</p> <p>【実務経験有】荻野 芳: 歯科医師の資格を活かし、臨床経験をもとに歯、口腔の健康と予防に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歯、口腔の健康を保持・増進する手段について概説できる。</li> <li>2. 唾液腺の種類を何も見ずに列挙できる。</li> <li>3. 歯磨剤、洗口剤の種類と組成を学び、確認テストで80%以上正解する。</li> <li>4. 齲蝕発生のメカニズムについて理解し、確認テストで80%以上正解する。</li> <li>5. フッ化物応用による齲蝕予防法を列挙できる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	概論	1) 口腔衛生学の意義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔衛生学を理解する</li> <li>・口腔と全身の健康との関係を理解する</li> <li>・第一次、二次、三次予防を説明できる</li> </ul>
2	口腔と健康	1) 歯科疾患の予防	
3		2) 口腔機能 歯・歯周組織・口腔粘膜・舌・顎関節・唾液腺 咀嚼・嚥下・発音・味覚	
4	歯口の発育と歯科疾患等に伴う変化	1) 歯の形成                      2) 歯の萌出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口腔機能を説明できる</li> <li>・口腔機能の保持増進を学ぶ</li> <li>・歯の形成、萌出、交換を説明できる</li> <li>★1、2、3、4回の確認テスト</li> </ul>
5	口腔環境	3) 歯の交換	
6	歯・口腔の不潔	1) 口腔の健康と全身の健康 唾液の作用・ペリクルの形成・エナメル質の成熟	<ul style="list-style-type: none"> <li>・唾の作用を説明できる</li> <li>・エナメル質の成熟を説明できる</li> <li>・歯の付着物、沈着物を理解する</li> <li>・歯石の特徴を説明できる</li> <li>・歯磨剤の組成を説明できる</li> <li>★5、6、7回の確認テスト</li> </ul>
7	口腔清掃	1) プラーク                      2) 歯石	
8	歯磨剤・洗口剤	3) 着色性沈着物              4) 舌苔	<ul style="list-style-type: none"> <li>・齲蝕の発生要因を説明できる</li> <li>・齲蝕の発生機序を説明できる</li> <li>・脱灰、再石灰化を説明できる</li> <li>・齲蝕活動性を説明できる</li> <li>・プラークコントロールを説明できる</li> <li>・生活習慣の改善を理解する</li> <li>・フッ化物の毒性を説明できる</li> <li>・齲蝕予防メカニズムを説明できる</li> <li>・フッ化物歯面塗布を説明できる</li> <li>★8、9、10、11、12回の確認テスト</li> </ul>
9	齲蝕の予防	3) 齲蝕の発生要因              2) 齲蝕の発生機序	
10		3) 初期齲蝕の再石灰化      4) 齲蝕活動性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・齲蝕の発生要因を説明できる</li> <li>・齲蝕の発生機序を説明できる</li> <li>・脱灰、再石灰化を説明できる</li> <li>・齲蝕活動性を説明できる</li> <li>・プラークコントロールを説明できる</li> <li>・生活習慣の改善を理解する</li> <li>・フッ化物の毒性を説明できる</li> <li>・齲蝕予防メカニズムを説明できる</li> <li>・フッ化物歯面塗布を説明できる</li> <li>★8、9、10、11、12回の確認テスト</li> </ul>
11	歯とフッ化物	5) 第一次予防                      6) 第二次予防	
12		7) 第三次予防	<ul style="list-style-type: none"> <li>・フッ化物の分布              2) フッ化物の毒性</li> <li>・齲蝕予防機序</li> <li>・齲蝕予防への応用</li> <li>★13、14、15回の確認テスト</li> </ul>
13	歯周疾患の予防	1) 有病状況                      2) 症状と分類	
14		3) 発生機序                      4) 歯周疾患と全身疾患	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯周疾患の症状と分類を説明できる</li> <li>・歯周疾患発生要因を説明できる</li> <li>・全身疾患との関係を説明できる</li> </ul>
15	口臭予防 不正咬合	1) 第一次予防                      2) 第二次予防	
		1) 口臭の分類と原因              2) 予防と処置	<ul style="list-style-type: none"> <li>★13、14、15回の確認テスト</li> </ul>
		1) 不正咬合の分類              2) 原因と予防	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・最新歯科衛生士教本 「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第3版」 全国歯科衛生士教育協議会 監修		1) 科目終了時の最終試験の評価                      : 70% 2) 確認テスト    : 20% 3) 出席率    : 10%	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
口腔衛生学Ⅱ	歯科衛生学科/1年次	2020年度/後期	講義 ・ <b>演習</b> ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	荻野 芳(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>個人と集団に対する健康障害の予防能力を高める態度を養うために、歯、口腔の健康と予防にかかわる人間と社会の仕組みに関する基本的知識を習得し、関連する保険情報を把握し、衛生統計の手法を習得する。</p> <p>【実務経験有】荻野 芳: 歯科医師の資格を活かし、臨床経験をもとに歯、口腔の健康と予防に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域保健活動の方法を説明し、歯科保健活動計画を適用できる。</li> <li>2. 母子、学校、産業、成人、老人におけるそれぞれの歯科保健活動について説明できる。</li> <li>3. 歯科疾患実態調査の資料をポイントを絞って読み取ることができる。</li> <li>4. 齲蝕、歯周疾患、歯垢、歯石の指数を表にまとめ、説明できる。</li> <li>5. 歯科保健統計から歯科保健の現況を読み取り発表できる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	地域口腔保健活動 基礎知識	1) 公衆歯科衛生活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の保健医療を説明できる</li> <li>・健康日本21を説明できる</li> <li>・ヘルスプロモーションを理解する</li> <li>・口腔保健の目標を説明できる</li> <li>・市町村の歯科保健業務を説明できる</li> </ul>
2		2) 健康日本21 3) 健康増進法 4) ヘルスプロモーション	
3	地域口腔保健	1) 市町村の歯科保健業務 2) 保健所の歯科保健業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村の歯科保健業務を説明できる</li> </ul>
4	母子歯科保健	1) 妊産婦歯科健康診査 2) 1歳6か月児、3歳児歯科健康診査と保健指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・母子歯科保健の意義を説明できる</li> <li>・乳幼児の歯科保健を説明できる</li> </ul>
5	学校歯科保健	1) 歯・口腔の保健教育 2) 健康診断	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校歯科保健の意義を説明できる</li> <li>・口腔の保健教育を学ぶ</li> </ul>
6	産業歯科保健	1) 職業性歯科疾患 2) 産業歯科医	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業性歯科疾患を説明できる</li> </ul>
7	成人・老人・要介護者・ 障害者歯科保健	1) 要介護者、障害者への歯科保健	<ul style="list-style-type: none"> <li>・要介護者への歯科保健指導を理解する</li> </ul>
8	歯科疾患の疫学と統計	1) 齲蝕の指数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・齲蝕の指数を説明できる</li> </ul>
9		2) 歯周疾患の指数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯周疾患の指数を説明できる</li> </ul>
10		3) 歯垢・歯石の指数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯垢、歯石の指数を説明できる</li> </ul>
11	歯科疾患の疫学	1) 記述疫学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・記述疫学について説明できる</li> <li>・分析疫学について説明できる</li> <li>・介入疫学について説明できる</li> </ul>
12		2) 分析疫学	
13		3) 介入疫学	
14		4) スクリーニング	
15	歯科統計の基礎 歯科保健統計	5) 齲蝕の疫学 歯・宿主要因、環境要因、病原要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿主、環境、病原要因と齲蝕の関係を説明できる</li> </ul>
		6) 歯周疾患の疫学 宿主要因、環境要因、病原要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿主、環境、病原要因と歯周疾患の関係を説明できる</li> </ul>
		1) 母集団と標本 2) 標本抽出法 1) 国家統計調査の種類 2) 歯科疾患実態調査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・★11、12、13、14、15回の確認テスト</li> </ul>
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新歯科衛生士教本</li> <li>「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み1 保健生態学 第3版」</li> <li>「歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み3 保健情報統計学」</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 科目終了時の最終試験の評価 : 70%</li> <li>2) 確認テスト : 20%</li> <li>3) 出席率 : 10%</li> </ol>	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
衛生学・公衆衛生学	歯科衛生学科/1年次	2020年度/後期	講義・演習・実習
授 業 の 回 数 (×90分)	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択	授 業 担 当 者
15回	2単位 ( 30 時間)	必 須	奈良 育代 (実務経験有)
<p>[ 授 業 の 目 的 ・ ね ら い ]</p> <p>健康の意義、人間集団の特徴、生活環境に関心を持ち、健康な地域生活に必要な環境状態と地域の保健活動の仕組みを学ぶ。</p> <p><b>【実務経験有】</b>奈良 育代:看護師の資格を活かし、実務経験をもとに医療と福祉に関する法制度を学生に教授する。</p> <p>[ 授 業 修 了 時 の 達 成 課 題 (行 動 目 標 ) ]</p> <p>1.生活を取り巻く自然・社会環境や食生活をはじめとする生活習慣が我々の健康に大きく影響している。それらの様々な要因と健康の関係を学び、地域社会や集団で活用することによって健康に生かすことができる。</p> <p>2.「歯、口腔の機能をどのように発揮するかによって、生涯の健康を大きく左右する」という事実を、他の多くの保健医療福祉関係者に伝え、連携し、健康の保持増進に寄与できる。</p>			
[ 授 業 の 内 容 ]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
1	総論	1)衛生学・公衆衛生学の定義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・衛生・公衆衛生とは</li> <li>・ヘルスプロモーションとノーマライゼーション</li> <li>・国勢調査、人口構造</li> <li>・人口動態統計</li> <li>・環境と健康の概念</li> <li>・O<sub>2</sub>濃度、CO濃度</li> <li>・一般廃棄物、産業廃棄物、医療廃棄物</li> <li>・おもな公害と健康障害</li> <li>・疾病、異常(健康障害)の発生要因</li> <li>・罹患率と有病率</li> <li>・特異度と陽性反応の中率</li> <li>・感染とその概念</li> <li>・感染源、感染経路、宿主の感受性</li> <li>・感染対策</li> <li>・近年の風疹、麻疹、梅毒</li> <li>・栄養所要量</li> <li>・栄養機能食品</li> <li>・身体活動指針</li> <li>・健康増進法</li> <li>・地域保健のおもな対象、法令、活動</li> <li>・母子保健統計</li> <li>・母子保健事業と母子保健施策</li> <li>・1歳6ヶ月歯科健康診査</li> <li>・3歳児歯科健康診査</li> <li>・学校保健の意義と特徴、学校における歯科保健問題</li> <li>・学校歯科健康診断の記号と基準</li> <li>・高齢者の保健対策</li> <li>・老人保健事業の概要</li> <li>・産業保健に関する法規</li> <li>・労働衛生対策</li> </ul>
2	人口	1)人口に対する統計	
3	環境と健康	1)環境と健康の概念	
4		2)生活環境	
5	疫学	3)廃棄物処理	
6		4)環境保全	
7	感染症	1)疫学とは	
8		2)疫学の方法論	
9	食品と健康	3)因果関係の判断基準	
10		1)感染と発病	
11	生活習慣	2)感染の三大原因	
12		3)感染予防	
13	地域保健	4)おもな感染症の動向と予防	
14		1)国民の栄養と現状	
15	母子保健	2)食育と食品衛生	
		1)生活習慣とは	
		2)健康関連行動	
		1)地域保健の概念、組織	
		2)地域保健計画・地域保健活動の進め方	
		1)母子保健の意義・統計	
		2)母性保健管理	
		3)小児保健管理	
		4)母子保健対策	
		1)学校保健の意義及び概要・活動と組織	
		2)保健組織活動・学校保健活動の推進・食育	
		1)成人・老人保健の現状	
		2)成人・老人保健活動	
		1)産業保健の概念・職業性疾病	
		2)産業保健管理・産業保健活動	
		1)精神保健の意義・分類、心の健康と障害	
		2)ライフサイクルからみた精神保健・精神保健対策	
		事前学習	
		次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する	
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・「デンタルスタッフの衛生学・公衆衛生学」 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 確認テスト : 10%	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科衛生士概論	歯科衛生学科/1年次	2020年度/前期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	2単位(30時間)	必須	横井 敦子(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>歯科衛生を實踐して人々の健康支援を支援するものとなるために、医療人としての基本的態度について理解し、多様な科目において知識技術を習得する態度及び論理的思考法の基礎を習得する。</p> <p>【実務経験有】横井 敦子: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに論理的思考の基礎を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歯科衛生学を概説できる。</li> <li>2. 論理的思考に基づいた業務展開の意義を説明できる。</li> <li>3. 歯科衛生業務の實踐におけるコミュニケーション力の必要性を説明できる。</li> <li>4. 歯科衛生過程の全体像がイメージでき、概要を説明できる。</li> <li>5. 歯科衛生過程の構成要素と書面化について知り、相互に説明できる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	歯科衛生士とは	1) 歯科衛生学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科衛生学の定義</li> <li>・健康の考え方</li> <li>・ライフステージの関わる歯科衛生活動</li> <li>・チーム医療</li> <li>・歯科衛生士憲章</li> <li>・歯科衛生士制度の誕生</li> <li>・一次予防、二次予防、三次予防</li> <li>・健康と生活を分析するモデル</li> <li>・保健行動</li> <li>・ヒューマンニーズ理論</li> <li>・歯科衛生士の倫理、心構え</li> <li>・国際歯科衛生士連盟</li> <li>・日本歯科衛生士憲章</li> <li>・歯科衛生アセスメント</li> <li>・情報収集、情報処理</li> <li>・歯科衛生診断</li> <li>・歯科衛生計画立案</li> <li>・歯科衛生士法</li> <li>・歯科衛生士の法的性格</li> <li>・歯科衛生士の動向</li> <li>・保健、医療、福祉にかかわる歯科衛生士</li> <li>・チーム医療</li> </ul>
2		2) 歯科衛生と健康	
3	歯科衛生の歴史	3) 歯科衛生活動の対象 4) 歯科衛生活動の領域	
4	歯科衛生活動のための理論	1) 歯科衛生の誕生と経緯 2) 歯科衛生士の役割と展望	
5		1) 予防の概念 2) 歯科衛生の考え方 3) 科学的思考 4) 歯科衛生活動の領域	
6	歯科衛生士と医療倫理	1) 倫理の必要性 2) 医の倫理と患者の権利 3) 歯科衛生と倫理 4) 自己決定権の尊重・インフォームドコンセント	
7			
8	歯科衛生過程	1) 歯科衛生過程とは	
9		2) 歯科衛生課程活用の利点 3) 歯科衛生過程の流れ	
10	歯科衛生士法と 歯科衛生業務	1) 歯科衛生士と歯科衛生士法 2) 歯科衛生士の役割と展望	
11	歯科衛生士の活動と組織	1) 歯科衛生活動の現状	
12		2) 歯科衛生活動の場	
13		3) 歯科衛生活動の場	
14		4) 歯科衛生活動の場	
15		5) 歯科衛生活動の場	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・総論P2～13</li> <li>・基礎知識P16～27</li> <li>・歯科衛生過程(概要)P98～101</li> </ul>			事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新歯科衛生士教本「歯科衛生学総論」</li> <li>・最新歯科衛生士教本「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」 歯科衛生士教育協議会編集 医歯薬出版株式会社</li> </ul>		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科保存学	歯科衛生学科/1年次	2020年度/後期	講義 ・ <b>演習</b> ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	岡村 純子(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]            歯科衛生業務を行うために必要な歯に生じる疾患の種類、病態、診断法および治療法を理解する。  <b>【実務経験有】</b>岡村 純子: 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに歯科保存療法に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]            1. 歯の硬組織疾患の種類と処置法を説明できる。            2. 窩洞の名称、分類と窩洞形態の原則を説明できる。            3. 修復処置に使用する器材の目的を説明できる。            4. 歯髄・根尖性歯周組織疾患の分類と症状を説明できる。            5. 歯髄の保存療法を説明できる。            6. 外科的歯内療法の種類と適応症を説明できる。</p>			
[ 授 業 の 内 容 ]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	総論	1)歯の保存療法の種類	<ul style="list-style-type: none"> <li>・齶蝕、歯の外傷、歯の損傷、歯髄疾患、根尖性歯周炎、歯周疾患</li> <li>・窩洞の分類 ・切削器具</li> <li>・防湿法、歯間分離法、歯肉排除法、隔壁法、除痛法</li> <li>・銀アマルガム</li> <li>・化学重合型・光重合型コンポジットレジン</li> <li>・ガラスアイオノマーセメント</li> <li>・ラミネートベニア修復</li> <li>・インレー修復</li> <li>・生活歯漂白</li> <li>・齶窩の開拡、薬剤の種類と所要性質、歯髄鎮静療法、覆髄法、暫間的間接覆髄法</li> <li>・除痛法、歯髄切断法、抜髄法</li> <li>・感染根管治療</li> <li>・根管充填法</li> <li>・膿胞切開、根管搔爬、根尖切除、歯根切断法、歯根分離法、ヘミセクション、歯内骨内インプラント、再植、移植</li> </ul>
2	保存修復学	2)口腔診査	
3		1)保存修復学の意味と概要	
4		2)アマルガム修復	
5		3)コンポジットレジン修復	
6		4)ガラスアイオノマーセメント修復	
7		5)ラミネートベニア修復	
8		6)鋳造修復	
9		7)その他の修復法	
10	歯内療法学	1)歯内療法学の概要	
11		2)歯科衛生士と歯内療法	
12		3)歯髄の保存療法	
13		4)歯髄の除去療法	
14		5)根管治療・根管充填	
15		6)外科的歯内療法	
		7)歯内療法における偶発症	
		8)歯内療法に使われる薬剤・器材	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・最新歯科衛生士教本 「歯の硬組織・歯髄疾患 保存修復・歯内療法」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯周治療学	歯科衛生学科/1年次	2020年度/後期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(16時間)	必須	岡村 純子 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>歯科衛生業務を行うために必要な歯周組織に生じる疾患の種類、病態、診断法および治療法を理解する。  <b>【実務経験有】</b>岡村 純子: 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに歯周療法に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歯周病の種類と病態を説明できる。</li> <li>2. 歯周治療の流れを説明できる。</li> <li>3. 歯周病の検査法と検査結果を説明できる。</li> <li>4. 歯周外科治療の種類と適応症を説明できる。</li> <li>5. 歯周治療後の再評価ができる。</li> <li>6. 歯周治療後のメンテナンス、SPTについてを説明できる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	歯周治療の基礎知識	1) 歯周疾患の現状と治療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯周疾患の罹患状況</li> <li>・歯周治療の目的</li> <li>・歯肉の発赤・腫脹・出血・排膿・動揺</li> <li>・歯肉炎と歯周炎の違い</li> <li>・正常な歯肉と歯周ポケットの細菌</li> <li>・プラークの組成と歯周疾患</li> <li>・外傷性咬合</li> <li>・歯周疾患の分類とその特徴</li> <li>・歯周治療の内容と進め方</li> <li>・歯周組織の破壊の程度と診査方法</li> <li>・原因となる因子と咬合の診査</li> <li>・歯周疾患におけるエックス線写真読影</li> <li>・歯周基本治療の効果と実際</li> <li>・目的と分類</li> <li>・咬合調整、矯正治療の意義</li> <li>・固定法、欠損補綴の意義と方法</li> <li>・インプラント治療のメンテナンス</li> <li>・メンテナンスの意義、目的、方法</li> <li>・歯周組織検査・診断時の補助</li> </ul>
2	歯周疾患	2) 正常な歯周組織の構造と機能	
3	歯周疾患の原因	1) 歯周疾患の症候と症状 2) 歯肉炎と歯周炎	
4	歯周疾患の分類	1) 局所因子 2) 全身性因子、機能性修飾因子	
5	歯周医学 歯周治療の進め方	1) 歯肉炎 2) 歯周疾患と全身疾患の関連性	
6	歯周治療の進め方	1) 歯周疾患の予防と治療の基本 2) 歯周疾患の治療方針	
7	歯周疾患の診査	1) 一般診査と歯周組織検査 2) エックス線写真による診査	
8	歯周基本治療 歯周外科治療 歯周治療としての リハビリテーション メンテナンス	1) 歯周基本治療とは 2) 歯周外科治療の目的 3) メンテナンス・SPTの重要性と意義 4) メンテナンス・SPTの内容 5) メンテナンス・SPTの流れ	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新歯科衛生士教本「歯周病学 第2版」</li> <li>全国歯科衛生士教育協議会 監修</li> <li>医歯薬出版株式会社</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90%</li> <li>2) 出席率 : 10%</li> </ol>	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
小児歯科学	歯科衛生学科/1年次	2020年度/後期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(16時間)	必須	池田 耕士(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>歯科衛生業務を行うために必要な小児の身体的・心理的特徴と小児の歯科治療を理解する。  <b>【実務経験有】</b>池田 耕士: 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに小児歯科学に関する基礎知識を学生に教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 顎・顔面の成長発育とその障害を説明できる。</li> <li>2. 各年齢における小児の正常な成長発達に関する事項を説明できる。</li> <li>3. 歯列および咬合の発育と発育障害を説明できる。</li> <li>4. 乳歯と幼若永久歯の形態的特徴ならびにう蝕の特徴を説明できる。</li> <li>5. 小児のう蝕予防と進行抑制法を説明できる。</li> <li>6. 乳歯と幼若永久歯の歯冠修復法ならびに歯内療法を説明できる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	小児歯科学概論	1) 小児歯科学とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小児の発育段階・骨年齢・歯齡</li> <li>・器官の発育形式</li> <li>・カウプ歯数、ローレル歯数</li> <li>・スキヤモンの発育曲線</li> <li>・情動・感覚・言語・運動機能の発達</li> <li>・摂食嚥下機能の発達</li> <li>・歯の形成・萌出時期</li> <li>・歯の形成異常・萌出異常</li> <li>・リーウエイスペース・歯列、咬合の発育異常</li> <li>・不正咬合(機能的、骨格的、口腔習癖)</li> <li>・齲蝕発生の原因</li> <li>・乳歯・幼若永久歯の特徴</li> <li>・感染性疾患・硬組織疾患・軟組織疾患</li> <li>・小児の歯周疾患・歯の異常・先天異常</li> </ul>
2	心身の発育	1) 発育の概念と分類 2) 器官の発育・精神的発達・小児の生理的特徴	
3	顔面頭蓋の発育	1) 顎顔面頭蓋の発育 2) 発育の評価法	
4	歯の発育とその異常	1) 歯の形成 2) 歯の萌出と萌出不全	
5	歯列・咬合の発育と異常	1) 歯列・咬合の発育 2) 歯列・咬合の異常	
6	小児の歯科疾患	1) 小児にみられる齲蝕 2) 乳歯、幼若永久歯の齲蝕 3) 小児にみられる歯周疾患 4) 全身疾患に伴う歯周炎 5) 小児にみられる口腔軟組織の異常と疾患 口腔粘膜・歯肉・口唇・小帯の異常・唇顎口蓋裂	
7	小児歯科診療	1) 小児期の特徴と歯科的問題点 2) 小児歯科における診療体系 3) 小児歯科診療における原則 4) 母親教室 5) 小児歯科における麻酔法 6) 小児の歯冠修復、歯内療法 7) 小児の外科的処置 8) 外傷の処置 9) 咬合誘導、フッ化ジアンミン塗布 10) リコール(定期健診)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新生児、乳児、幼児の診査</li> <li>・予防処置</li> <li>・小児への薬物応用・応急処置</li> <li>・小児う蝕、歯周疾患の処置</li> <li>・外科的処置</li> <li>・咬合誘導</li> <li>・小児の口腔管理</li> <li>・小児歯科患者の行動と特徴</li> </ul>
8	小児歯科における患者との対処法 障害者の歯科治療	1) 患児・保護者と歯科医師・歯科衛生士との関係 2) 歯科診療時の対応法 1) 障害児における歯科の処置 2) 発達障害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・診療行為と情動変化</li> <li>・精神遅滞(知的障害)・脳性麻痺</li> <li>・発達障害(自閉症など)・ダウン症候群</li> </ul>
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新歯科衛生士教本「小児歯科」</li> <li>全国歯科衛生士教育協議会 監修</li> <li>医歯薬出版株式会社</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90%</li> <li>2) 出席率 : 10%</li> </ol>	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯周病予防法 I	歯科衛生学科/1年次	2020年度/前期	(講義) ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
8回	1単位(16時間)	必須	横井 敦子・北原 恵子 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>歯科予防処置についての専門知識と技術、および態度を習得する目的と意義を理解するために概要について学ぶ。歯周病を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持、増進させるために専門的な知識、技術および態度を習得する。</p> <p>【実務経験有】横井 敦子・北原 恵子: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに臨床における歯周病治療の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歯科予防処置の法的位置づけについて何も見ずに説明できる。</li> <li>2. 正常な歯・歯周組織と口腔についての模式図に名称が書ける。</li> <li>3. 歯石、プラークの形成過程と成分について説明できる。</li> <li>4. 歯周病の原因と分類、進行過程が説明できる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	歯科予防処置の概要	1) 歯科予防処置の概要	・歯科予防処置とは
2	歯周病予防処置の基礎知識1	2) 歯科衛生過程とは 1) 歯科予防処置の種類	・予防的歯石除去法とう蝕予防処置
		2) 正常な歯周組織とは	・歯周組織の正常像 ・正常な歯肉の遊離縁下
3	歯周病予防処置の基礎知識2	1) 健康な口腔とは 2) 口腔の機能	・健康な口腔の模式図
			★まとめ小テスト
4	歯周病予防処置の基礎知識3	1) 口腔内の付着物と沈着物 2) プラークとは 3) バイオフィルムとは 4) 歯石とは	・付着物と沈着物 ・歯肉縁上プラークと歯肉縁下プラーク ・プラークの成分と分類 ・歯肉縁上歯石と歯肉縁下歯石 ・歯石の成分と分類
5	歯周病予防処置の基礎知識4	1) 歯周病とは 2) 歯周病の原因と分類と進行	
6			
7	歯周病予防処置の基礎知識5	1) 歯周診査用器材の種類	・指先の訓練 ・ファントムの取り扱い ・器具の把持 ・手用スクレーパーの構成と種類 ・ポケットの分類 ・ミラーテクニック
8		2) マネキン上での演習 3) 正しい姿勢	★実技チェック ・ポケットの分類 ・歯肉炎と歯周炎 ・歯周細菌の種類と検体
			・データの持つ意味と活用方法
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版」 全国歯科衛生士教育協議会監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	



## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

[ 授 業 の 内 容 ]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
16	基礎実習	1) 歯面研磨の目的 2) 臨床における注意事項	
17	基礎実習	1) 使用機材と操作方法	・マネキン実習 ・PMTCと歯面研磨 ・歯科器械の取り扱い
18	基礎実習	1) PMTC	・マネキン実習 ・固定と安全な操作
19	基礎実習	1) プロービング基本操作	・マネキン実習 ・安全な操作 ・ポジションと姿勢
20	基礎実習	1) プロービング基本操作	・マネキン実習 ・プロービング圧のコントロール
21	相互実習	1) プロービング相互実習	・安全、正確な計測 ・ポジションと姿勢
22	相互実習	1) プロービング相互実習	・患者への配慮
23	相互実習	1) 歯面研磨相互実習	・口腔内での安全な器械の取り扱い ・ポジションと姿勢
24	相互実習	1) 歯面研磨相互実習	・患者への配慮
25	相互実習	1) 口腔内診査 (DMF)	
26	相互実習	1) 口腔衛生状態の指数 ・PCR/OHI/OHI-S/PII/PHP	・客観的評価 ・対象歯、判定基準の把握
27	相互実習		
28	相互実習	1) 歯周疾患の指数 ・PMA/PI/GI/GB/CPI	・健康な歯肉と病的な歯肉の違い ・安全な器具の取り扱い
29	相互実習		
30	まとめ	1) データのまとめ 2) データの活用方法	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
う蝕予防法	歯科衛生学科/1年次	2020年度/後期	講義 ・ <b>演習</b> ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	白川 みずえ ・ 北原 恵子 (実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>う蝕を予防し、人々の歯・口腔の健康を維持、増進させるために専門的知識、技術および態度を習得する。</p> <p><b>【実務経験有】</b>白川 みずえ・北原 恵子: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに臨床における齲蝕予防の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. う蝕活動性試験を実施し、結果を評価することができる。</li> <li>2. 小窩裂溝填塞法の術式を把握し、実施することができる。</li> <li>3. フッ化物応用法を説明できる。</li> <li>4. フッ化物の毒性と急性中毒への対応を説明できる。</li> <li>5. フッ化物局所応用法の術式を把握し、実施することができる。</li> </ol>			
	単 元	内 容	学習のポイント
1	う蝕予防処置法	1) 齲蝕予防処置法の種類	
2	う蝕活動性試験	1) う蝕活動性試験とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意義・具備すべき条件・使用目的</li> <li>・ 宿主因子の評価方法</li> <li>・ 口腔環境因子の評価方法</li> <li>・ RDテスト、ミューカウント、Dentocult-SM</li> <li>・ オーラルテスターミュータンス</li> <li>・ Dentocult-LB、カリオスタット、唾液分泌</li> <li>・ グルコースクリアランステスト、緩衝能</li> </ul>
3		2) う蝕活動性試験の意義・条件・目的	
4		3) う蝕発病因子の評価方法の種類と特徴	
4	う蝕予防計画	4) う蝕活動性試験の実際	
5	小窩裂溝填塞	1) 評価結果に基づく予防と治療	
6		1) 術式	
7	フッ化物応用	・ ラバーダム防湿	
8		2) 光重合型小窩裂溝填塞マネキン実習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 急性中毒、慢性中毒</li> <li>・ 悪心・嘔吐発現フッ化物溶液量の算出</li> </ul>
9		3) 化学重合型小窩裂溝填塞マネキン実習	
10	4) フッ化物局所応用によるう蝕予防法		
11	フッ化物歯面塗布	2) フッ化物の毒性と急性中毒への対応	
12		3) ライフステージ別のフッ化物局所応用	
13	フッ化物相互実習	1) フッ化物歯面塗布法の種類	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 綿球・綿棒塗布法、トレー法、イオン導入法</li> <li>・ 歯ブラシ法</li> <li>・ 2%フッ化ナトリウム溶液</li> <li>・ リン酸酸性フッ化ナトリウム溶液</li> </ul>
14		2) 効果的な塗布の時期	
15		3) 使用製材	
16		4) フッ化物溶液の保管と使用量の確認	
17	鍍銀法・フッ化ジアンミン銀	1) 術式	
18		2) 相互実習	
19	う蝕予防処置集団応用	3) 塗布後の注意	
20		4) フッ化物洗口の実施方法	
21		1) 効果	
22	う蝕予防処置集団応用	2) 作用機序	
23		3) フッ化ジアンミン銀塗布実習	
24	う蝕予防処置集団応用	4) 手指および布への着色・脱色実習	
25		1) 集団応用の基礎知識	
26	う蝕予防処置集団応用	2) 集団応用実施例	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 最新歯科衛生士教本</li> <li>「歯科予防処置論・歯科保健指導論第2版」</li> <li>「保健生態学 第3版」</li> <li>全国歯科衛生士教育協議会監修</li> <li>医歯薬出版株式会社</li> </ul>		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90%</li> <li>2) 出席率 : 10%</li> </ol>	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科保健指導論 I	歯科衛生学科/1年次	2020年度/前期	講義・演習・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	2単位(30時間)	必須	坪田 ゆかり・北原 恵子 横井 敦子・白川 みずえ(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持、増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を習得する。特に、歯科保健指導についての専門知識、技術および態度を習得する目的と意義を理解するために、その概要を学ぶ。</p> <p>【実務経験有】坪田 ゆかり・北原 恵子・横井 敦子・白川 みずえ: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとにライフステージにおける歯科保健指導の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歯科保健指導について概要を説明できる。</li> <li>2. 歯科保健指導に関わる理論と行動変容を説明できる。</li> <li>3. 歯ブラシ・歯磨剤・口腔清掃法についての基礎知識と技術を学び、実習で101%磨きを達成できる。</li> <li>4. 歯ブラシセット、歯ブラシチャートを使用し、ブラッシング法の適応、特徴と留意点を説明できる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	歯科保健指導 実施のための基礎知識	1) 歯科保健指導とは	・ 歯科専門知識の修得
2		2) 保健行動支援のための基礎知識	・ 行動変容に関連する理論 ・ 行動変容を促す理論の実践
3			・ 健康信念モデル、学習理論、社会的認知理論 ・ 行動変容ステージモデル、認知行動療法、動機づけ面接
4	食生活指導のための 基礎知識	1) 食生活および食習慣の把握	・ 食事バランスガイド
5		2) 食品と齶蝕誘発性	
6		3) 咀嚼と食品	・ 唾液の働き
7			
8	口腔衛生介入としての 歯科保健指導	1) ブラッシング	・ 100%磨き実施  ・ 歯ブラシ ・ 歯垢染色剤 ・ 歯磨剤 ・ 洗口剤、保湿剤 ・ 水平法、垂直法、スクラッピング法 ・ 1歯ずつの縦磨き法、バス法 ・ フォーンズ法、ローリング法、スティルマン法 ・ チャーターズ法 ・ デンタルフロス ・ 歯間ブラシ ・ タフトブラシ、スポンジブラシ、舌ブラシ ・ 義歯ブラシ
9		2) ブラッシング	
10		3) ブラッシング	
11		4) ブラッシング法	
12		5) ブラッシング法	
13		6) その他の清掃方法	
14		7) その他の清掃方法	
15	歯ブラシセット作成 ブラッシング方法のチャート作成	・ ブラッシング法説明	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・ 最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」 ・ 歯科口腔保健の推進に向けてライフステージに応じた歯科保健指導ハンドブック		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科保健指導演習Ⅰ	歯科衛生学科/1年次	2020年度/後期	講義・ <b>演習</b> ・実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
30回	2単位(60時間)	必須	坪田 ゆかり・北原 恵子 横井 敦子・白川 みずえ(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>歯科保健指導論Ⅰの基礎知識を生かし、ライフステージにおける乳幼児から高齢者まで、全身および口腔の健康の維持増進のために口腔ケアの果たす役割を理解し、実習を通して実践力を身につける。</p> <p>【実務経験有】坪田 ゆかり・北原 恵子・横井 敦子・白川 みずえ: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとにライフステージにおける歯科保健指導の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 禁煙指導と支援ができる。</li> <li>2. 各ライフステージ別の一般的特徴と口腔の特徴および歯科保健行動を説明できる。</li> <li>3. 各ライフステージ別の口腔衛生指導、食生活指導が説明できる。</li> <li>4. 自分自身の口腔衛生管理ができる。</li> <li>5. 保育所、幼稚園、小学校を対象とした健康教育が立案できる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	喫煙者に対する指導  ライフステージに対応した 歯科衛生介入	1)喫煙状況のアセスメント	・ファーガストローム・ニコチン依存度テスト
2		2)禁煙ステージのアセスメントと禁煙支援のポイント	・ストレスナー、認知的評価対応能力
3		3)ストレスマネジメント	
4		1)妊産婦期 妊産婦期の一般的、口腔の特徴 妊産婦期の歯科衛生介入、食生活指導	・喫煙が妊娠に及ぼす影響 ・母子健康手帳 ・妊産婦のための食事バランスガイド ・歯周病の影響、低体重児出産
5		2)乳児期 乳児期の発育、口唇と舌機能の発達過程	・乳児期の一般的、口腔の特徴 ・乳児期の歯科衛生介入、食生活指導
6		離乳食の進め方	・卒乳、食物アレルギー、哺乳反射
7		口腔清掃	・イオン飲料とう蝕
8		3)幼児期 幼児期の一般的、口腔の特徴	・幼児期の発育 ・幼児期の歯科衛生介入、食生活指導
9		乳歯の萌出時期の理解	・食育推進基本計画
10		情報収集	・健やか親子(第2次)
11		4)学齢期 学齢期の一般的、口腔の特徴	・学齢期の一般的、口腔の特徴 ・学齢期の歯科衛生介入
12		プロフェッショナルケア、セルフケア、コミュニティケアの目標	・食育 ・肉食
13		学齢期の食生活指導	・ペットボトル症候群 ・プラークフリー
14		5)青年期 青年期の一般的、口腔の特徴	
15		望ましい保健行動 健康と栄養 100%ブラッシング(歯科衛生過程)	・歯周病との関連疾患 ・ブレスローの7つの健康習慣 ・周術期 ・サルコペニア、フレイル、ロコモティブシンドローム
			次のページに続く
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・最新歯科衛生士教本 「歯科予防処置論・歯科保健指導論 第2版」 ・歯科口腔保健の推進に向けてライフステージに応じた歯科保健指導ハンドブック		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

[ 授 業 の 内 容 ]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
16	小集団指導法	1)話の組み立ての基本	
17		2)媒体についての基礎知識	
18		3)保育園・小学校を対象とした集団歯科保健指導	
19		4)シナリオ作成	
20		5)伝達技術(プレゼンテーション)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シナリオ完成</li> <li>・媒体決定</li>   <li>・PDCAサイクル</li> <li>・歯の健康力</li> <li>・指導案</li> <li>・教育媒体</li> </ul>
21	歯科衛生教育活動	6)前準備・打ち合わせ	
22		7)指導計画表作成	
23		1)健康教育の概要	
24		2)健康教育の進め方	
25		3)学校保健(小学校)における歯科保健指導	
26		4)シナリオ作成	
27		5)シナリオ作成	
28		6)学校歯科医、養護教諭との連携	
29		7)シナリオ、教育計画の見直し	
30		8)ワークシートの作成	
		9)指導後評価	
		10)自己評価	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科診療補助論 I	歯科衛生学科/1年次	2020年度/前期	講義 ・ <b>演習</b> ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
30回	2単位( 60 時間 )	必須	白川 みずえ ・ 坪田 ゆかり 北原 恵子・横井 敦子(実務経験有)
<p>[ 授業の目的・ねらい ]</p> <p>さまざまなライフステージにおける歯科医療に対応するために、専門的な歯科医療の補助に関する、基礎的知識、技術および態度を習得する。専門的な歯科診療の補助のために必要な基礎的知識、技術、態度を身につける。</p> <p><b>【実務経験有】</b>白川 みずえ・坪田 ゆかり・北原 恵子・横井 敦子: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに歯科診療補助の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[ 授業修了時の達成課題(行動目標) ]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歯科衛生士法における歯科診療補助の位置づけが説明できる。</li> <li>2. 共同動作の基本を理解し、フォーハンドシステムの基本的動作ができる。</li> <li>3. 医療安全管理におけるスタンダードプレコーション、医療廃棄物について説明できる。</li> <li>4. 消毒薬、各種滅菌器械・器具の操作、取り扱いができる。</li> <li>5. 歯科用ユニットの構造と機能について説明できる。</li> </ol>			
[ 授業の内容 ]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	歯科診療補助の概念	1) 診療の補助とは	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科衛生士法</li> <li>・保健師助産師看護師法</li> <li>・インシデント、アクシデント</li> <li>・フローチャート</li> <li>・スタンダードプレコーション</li> <li>・手指消毒</li> <li>★確認テスト</li> <li>・ラテックスアレルギー</li> <li>★確認テスト</li> <li>★確認テスト</li> <li>・滅菌・消毒・洗浄</li> <li>・消毒剤の用途と使用濃度</li> <li>・消毒水準分類</li> <li>・感染リスク</li> <li>・産業廃棄物、一般廃棄物</li> <li>・歯科用ユニットの取り扱い</li> <li>★確認テスト</li> </ul>
2	医療安全と感染予防	2) 診療の補助の範囲の法的な変化	
3		1) 医療安全	
4	歯科医療における感染予防対策	2) 歯科診療での補助業務	
5	手指衛生	3) 医療法と医療安全対策	
6	グローブ装着・着脱の手順	4) 感染予防	
7		1) 環境感染予防対策	
8		2) 感染事故時の対応	
9	滅菌と消毒	1) 手指衛生の分類	
10		2) 感染を予防するための基本的手法	
11		1) グローブ、マスクの付け方、外し方	
12	歯科診療における基礎知識	2) プラスチックエプロンの付け方、外し方	
13			
14			
15		3) 薬品・歯科材料の管理	
			次のページに続く
			事前学習
			次回の授業内容をふまえてテキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」第2版</li> <li>・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論 歯科機器」</li> <li>・最新歯科衛生士教本「歯・口腔の構造と機能口腔解剖学」</li> </ul> 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90%</li> <li>2) 出席率 : 10%</li> </ol>	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

[ 授 業 の 内 容 ]				
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト	
16	歯科診療所における 受診の流れ	1) 歯科診療所における患者対応	★確認テスト	
17		2) 患者誘導		
18	共同動作	1) 共同動作の概念		
19		2) 術者・補助者・患者のポジショニング		
20		3) 診療時のライティング		
21		4) フォーハンデッドデンティストリー		
22		5) 器具の受け渡し		
23		6) 器具の受け渡し		
24		7) バキュームテクニック		
25		8) スリーウェイシリンジテクニック		
26	綿球・ロールワッテ作成	1) ロールワッテ・綿球作製実習		★確認テスト
27		2) ロールワッテ・綿球作製実習		
28	口腔内観察	1) 歯の種類と数・歯の表示法		
29		2) 歯および口腔検査用機器の取り扱い		
30	まとめ			
	[関連テキスト] 28、29回 口腔解剖P148～154 歯科機器P61～62			

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科材料学	歯科衛生学科/1年次	2020年度/後期	講義 ・ <b>演習</b> ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
10/30回	2単位 (60時間)	必須	岡村 純子・白川 みずえ・坪田 ゆかり 北原 恵子・横井 敦子(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>歯科診療に対応するために歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および、標準的な使用法を習得する。</p> <p>【実務経験有】岡村 純子: 歯科医師の資格を活かし、業務経験をもとに歯科材料学の知識を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 印象材の種類、用途を説明できる。</li> <li>2. 模型用材料の種類、用途を説明できる。</li> <li>3. 合着材、接着材、仮封材の種類、用途を説明できる。</li> <li>4. 成形歯冠修復材の種類、用途を説明できる。</li> <li>5. ワックス、セラミックス、金属の種類、用途を説明できる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	歯科材料と歯科衛生 歯科材料の基礎知識 印象材	1) 歯科材料の所要性質 2) 歯科材料の取り扱い	<ul style="list-style-type: none"> <li>・物質の構造</li> <li>・医薬品医療機器等法・添付文書</li> <li>・アルジネート印象材</li> <li>・寒天印象材・モデリングコンパウンド</li> <li>・シリコーンゴム印象材、ポリエーテルゴム印象材</li> <li>・酸化亜鉛ユージオールセメント、印象用石膏</li> <li>・ISO、JISの分類</li> <li>・研究用模型、作業用模型</li> <li>・ガラスアイオノマーセメント</li> <li>・接着性レジンセメント</li> <li>・カルボキシレートセメント</li> <li>・リン酸亜鉛セメント</li> </ul>
2		1) 印象材の種類と用途 2) 印象材の組成と特徴	
3		3) 印象材の一般的性質	
4	模型用材料	1) 石膏の種類と用途 2) 石膏の一般的性質	
5	合着材・接着材	1) 合着材の種類と用途	
6		2) 接着性レジンセメントの種類と用途 3) 合着材・接着材の一般的性質	
7	成形修復材	1) 成形修復材の種類と用途	
8		2) 印成形修復材の組成と特徴	
9	仮封材	1) 仮封材の種類と用途	
10	暫間修復材と仮着用セメント ワックス セラミックス、金属	2) 暫間修復材の種類と用途 1) ワックスの種類と用途 2) 金属・セラミックスの種類と用途	
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」第2版</li> <li>・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論 歯科材料」</li> </ul> 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
歯科材料学	歯科衛生学科/1年次	2020年度/後期	講義 ・ <b>演習</b> ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
20/30回	2単位 (60時間)	必須	白川 みずえ・坪田 ゆかり 北原 恵子・横井 敦子(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>歯科診療に対応するために歯科治療で用いられる主要歯科材料の種類、基本的性質および、標準的な使用法を習得する。</p> <p><b>【実務経験有】</b>白川 みずえ・坪田 ゆかり・北原 恵子・横井 敦子: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに歯科診療補助の知識や技術を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 印象材の種類、用途を理解し、正しく取り扱うことができる。</li> <li>2. 模型用材料の種類、用途を理解し、正しく取り扱うことができる。</li> <li>3. 合着材、接着材、仮封材の種類、用途を理解し、正しく取り扱うことができる。</li> <li>4. 成形歯冠修復材仮封材の種類、用途を理解し、正しく取り扱うことができる。</li> <li>5. 相互実習において、患者に配慮し、印象採得し、スタディモデルを作製することができる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	印象材	1)基礎知識	・寒天印象材・モデリングコンパウンド 酸化亜鉛ユージノールセメント、印象用石膏 ・アルジネート印象材
2		2)アルジネート印象材の取り扱い	
3	模型用材料	1)歯科用石膏の練和	管理方法
4		2)歯科用石膏の取り扱い(実習・石膏棒作成)	
5	合着材および接着材	1)基礎知識	・ガラスアイオノマーセメント ・ガラスアイオノマーセメント
6		2)ガラスアイオノマーセメントの取り扱い	
7		3)カルボキシレートセメントの取り扱い	・カルボキシレートセメント
8		レジン添加型グラシアイオノマーセメント	
8		4)リン酸亜鉛セメント	
8	5)接着性レジンセメントの取り扱い	・接着性レジンセメント	
9	成形歯冠修復材	1)基礎知識	・テンポラリーストップング ・水硬性仮封材 ・仮封用軟質レジン ・サンダラックバーニッシュ
10	仮封材	2)成形歯冠修復材の種	
11		1)基礎知識	
11		2)テンポラリーストップング、セメント系仮封材の取り扱い	
12	薬品・歯科材料の管理 歯肉圧排 ラバーダム防湿	3)水硬性仮封材、仮封硬質レジンの取り扱い	
12		1)基礎知識	・薬剤添加綿糸、歯肉圧排用薬剤
13		2)種類と用途	
13	1)基礎知識		
14		2)取り扱い	
15		3)取り扱い	
			次のページに続く
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて テキストを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論」第2版 ・最新歯科衛生士教本「歯科診療補助論 歯科材料」 全国歯科衛生士教育協議会 監修 医歯薬出版株式会社		1) 科目終了時の最終試験の評価 : 90% 2) 出席率 : 10%	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

[ 授 業 の 内 容 ]			
回	単 元	内 容	学 習 の ポ イ ン ト
16	ワックス	1)種類と用途	•ワックス
17	相互実習	1)研究用模型印象(相互実習)	
18		2)研究用模型印象(相互実習)	
19		3)研究用模型印象(相互実習)	
20		4)研究用模型印象(相互実習)	

## 授 業 進 度 計 画 (シ ラ バ ス)

科目名	学科/学年	年度/時期	授業形態
特別活動 I	歯科衛生学科/1年次	2020年度/前期	講義 ・ 演習 ・ 実習
授業の回数(×90分)	単位数(時間数)	必須・選択	授業担当者
15回	1単位(30時間)	必須	白川 みずえ ・ 坪田 ゆかり 北原 恵子・横井 敦子(実務経験有)
<p>[授業の目的・ねらい]</p> <p>1年次において、有意義に学生生活を送れるよう、行事、実習などの事前学習として時間を設ける。また、積極的に取り組む姿勢や実習における記録のスキルを養う。</p> <p>【実務経験有】白川 みずえ・坪田 ゆかり・北原 恵子・横井 敦子: 歯科衛生士の資格を活かし、業務経験をもとに臨床実習に臨む心構えや知識を学生へ教授する。</p> <p>[授業修了時の達成課題(行動目標)]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習施設に実習依頼の電話をかけ、訪問予定をとることができる。</li> <li>2. 医療の現場にふさわしい身だしなみができる。</li> <li>3. 実習記録・日誌が記入できる。</li> <li>4. 実習や校外学習の意義を理解し、積極的に動くことができる。</li> </ol>			
[授業の内容]			
回	単 元	内 容	学習のポイント
1	課外活動		
2	課外活動		
3	課外活動		
4	課外活動		
5	課外活動		
6	課外活動		
7	課外活動		
8	実習の心得	1) 見学実習の意味と目的	・実習の意味と目的
9		2) 実習の心得	・実習心得
10		3) 実習における記録の意味と目的	・記録の意味
11			・実習記録
12	実習記録の記入の仕方	1) 実習評価の意味と目的 2) 実習評価表の記入の仕方	
13	事故について	1) 院内感染防止について 2) 医療事故について	・事故が起こったときの対処方法
14	実習先において	1) 患者の状態の把握について 2) 実習施設への電話のかけ方、挨拶の仕方	・電話によるアポイントのとり方、挨拶
15		3) 実習訪問時の挨拶、面接について 4) 身だしなみについて 5) 実習先での態度について	・医療人としての態度、身だしなみ
			事前学習
			次回の授業内容をふまえて プリントを用いて予習する
[使用テキスト]		[単位認定の方法及び基準](試験等の評価方法)	
参考文献 臨地実習HAND BOOK		1) 課題・レポート 2) 出席率	: 90% : 10%